

② ペア学習の場面

RさんとMさんがペアで発表し合ったとき、「4段目がいいね。フェルマータで区切りをつけていたね」と自分がフェルマータで思いを表したことが理解してもらえて、自分のやりたい表現が相手に伝わったことがうれしかったようだ。また、先生に「かっこいいね」と言ってもらえたこと自分の表現に自信がつき、その後のペア学習では、ボリュームが上がり自信に満ちた表現になっていた。

(2) この事例から明らかになったこと

- Mさんは、自分の考えた歌い方をどんどんカードに記入していき、ペア学習では、そのカードをずっと指さしながら歌っていたので、学習カードに記入したことは、自分の表現のよりどころになった。
- ペアでの学習の仕方が、相手をどんどん変えていくやり方だったので、歌いながら次第に自信をつけていく姿があった。
- また、友だちの歌い方と自分の歌い方が同じという点に気づき、カードに「同じ」と書いていた。また、友の表現のよさを発見し「良」と書く姿もあった。お互い聴き合うことが、友だちのよさを発見したり、自分と一緒にだと共感したり、自分の表現を見返したりすることにつながった。
- 最後の感想に「人に聴かせるのは、いい気分」と書いている子もいた。人に聴かせるからこそ表現を工夫して、前向きな取り組みができていた。このことから歌で伝え合ったり、アドバイスする活動は表現を意識化できる活動であったといえる。

4 来年度への課題

- * 子どもたちが表現の工夫を意欲的に、どんどんやっていたが、どうしてそのような表現にしたのかという根拠も追究できたら、よかった。なぜそのような表現かがわかるとその子の表現したい気持ちをもっと伝わったのではないと思われる。
- * この曲は、ストーリーがあるので、もっと詞を読み込んだり、劇などにして表現したりすると、より思い入れが強くなり、表現もわかりやすくなったと思われる。
- * 本時は、3番の最後の歌い方だったが、3番の最後だけ、ちがうメロディーだったので、もっと歌えるようにしてから表現を工夫させればよかった。しかし、3番の3、4段目だけの工夫という課題は、この子たちにとってうまく取り組めたので、絞り込んでよかった
- * 表現の工夫をして、すぐペアでの発表だったが、自分の歌い方の練習をする時間もとっておけばもっと活動が活発になっただろうと思われる。

